

諸國旅雀一

序

總目錄

東海道五十三次

并佐屋廻り

名所遺跡

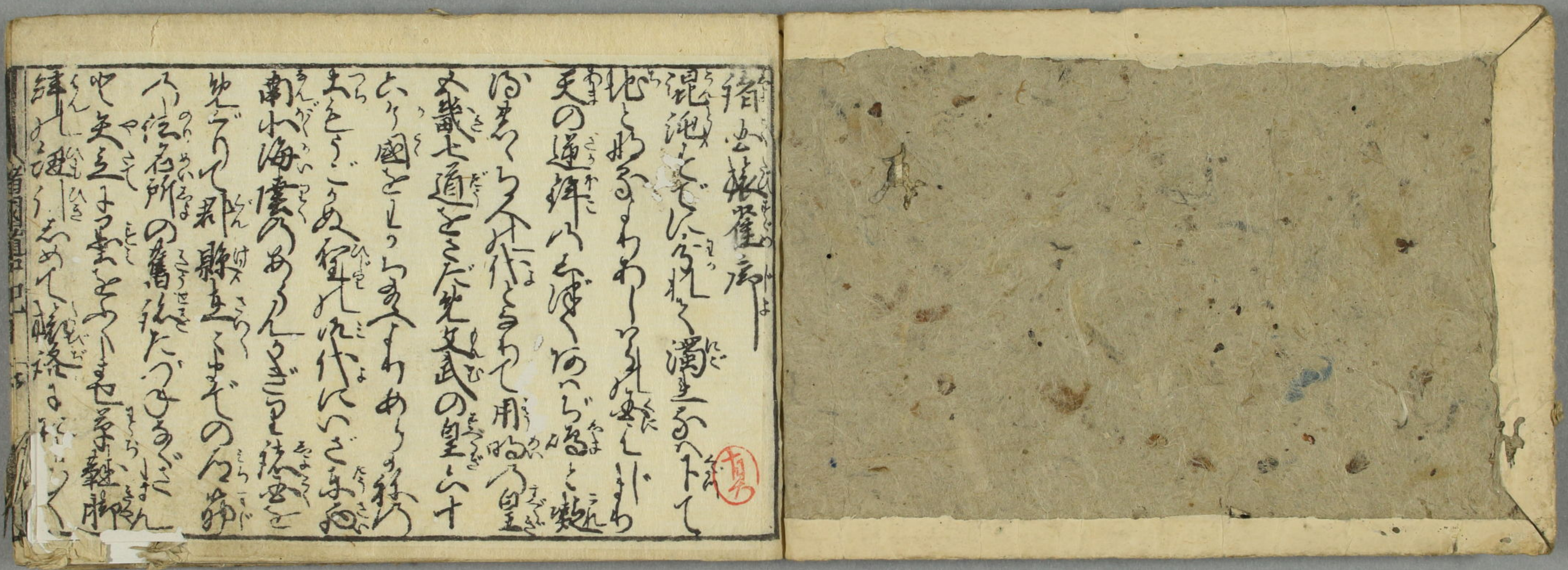
秀款来由

古蹟戰場

今極り

新點賃付





諸公表露序



混沌を以てはれく濁世を以て
地と好まわわしはれはれしは
天の運輝ははれくはらるる
はまわらふはれはれしは
又畿七道とて先文武の皇六十
六の國とてはれはれしは
南小海濱のありはれはれしは
先づりて郡縣をくもそのの
乃信石所の舊法たつしは
也又立よるはれはれしは
詳れはれはれしは



中校十年... 能... 祇子... 世... 水...

諸國案内旅籠目録

一之卷

一 江戸と東海道

五十... 寺社... 荷物...

二之卷

一 江戸分京大坂と東海

道之... 江戸... 常陸...

常陸之國奥列出羽日光山

は 之分^{わけ}は乃^{なり}未^ま澤^{ざい}、之^{これ}分^{わけ}れ道^{みち}

仙臺^{せんたい}、森岡^{もりおか}、之^{これ}分^{わけ}之法^{のり}

一江戸分^に出^で羽^は庄^{しょう}内^{うち}為^な世^よの道^{みち}

一岡川^{おかのがわ}江^え通^{とほ}

一江戸分^に日^ひ光^{こう}山^{さん}、之^{これ}幸^{さい}乃^{なり}

一江戸分^に足^{あし}利^り、并^{ひら}、足^{あし}利^り乃^{なり}

上^{かみ}野^の倉^{くら}、之^{これ}道^{みち}之法^{のり}

一倉^{くら}野^の分^に日^ひ光^{こう}山^{さん}、之^{これ}乃^{なり}

一江戸分^に下^{した}総^{そう}國^{こく}仇^{あか}倉^{くら}、之^{これ}道^{みち}

一江戸分^に川^{かわ}越^こ、之^{これ}道^{みち}

一江戸分^に常^{じょう}陸^{りく}之^{これ}國^{こく}康^{かう}島^{しま}、

之^{これ}分^{わけ}乃^{なり}列^{れつ}未^ま館^{かん}、之^{これ}乃^{なり}

一江戸分^に水^{みづ}戸^と松^{まつ}倉^{くら}、之^{これ}春^{はる}具^ぐ乃^{なり}

一水^{みづ}戸^と平^{へい}中^{ちゆう}村^{むら}、之^{これ}道^{みち}

三之卷

一京^{きやう}分^に伴^{ばん}勢^{せい}、之^{これ}道^{みち}之法^{のり}

一京^{きやう}分^に江^え戸^と上^{かみ}乃^{なり}曹^{そう}海^{かい}道^{みち}

今極致賃付名所曰初

一京正十目分江戸上中仙道

今極致賃付道之乃

一京正三目分江戸上小塩乃

今極致賃付乃之乃

名所曰乃 本乃の乃乃
小塩之乃乃乃乃乃乃

四史卷

一京初分紀伊高野之道

乃乃乃乃 名所曰乃

乃乃乃乃 御山之圖

一京七丁目分紀伊初野山之道

乃乃乃乃 名所曰乃

一京八丁目分青島湯本之道

乃之法 名所曰乃 名物

一京九丁目分奈良長谷甘井初瀬

乃野山之道之法

名所曰乃 乃野山之圖

一京十八丁目分吉野乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一京正目分和州初山之道

乃所曰乃 道之乃

一京正二目分鞍馬山之道

乃乃乃乃 乃所曰乃

山之繪圖

一 京ノ邊城并ニ愛宕山ノ道

名所旧法并ニ引弁繪圖

五之卷

一 京ノ大和國中ノ道

郡山法隆寺 文徳ノ南ノ道

去六ノ武峯ニ轉ニ南民

右名所旧法并ニ引弁ノ道

一 黄蘗山并ニ宇治里ノ道

為番有

一 吉野ノ高野山ノ道

一 物瀬ノ事野山ノ道

一 初瀬ノ伊勢ノ道

一 郡山ノ伊勢ノ道

一 加刺金沢ノ伊勢ノ道

一 加刺金澤ノ尾羽交ノ道

一 加刺壺沢ノ同尾添湯ノ道

一 加刺交腰ノ堀前幡多ノ道

一 加刺金沢ノ飛騨山ノ道

一 信州吉本ノ江ノ道

一 信州小治ノ上野ノ道

一 庄ノ津ノ道

一 信列上田同同訖務出ル

一 信初下飯初紡ハとレ控ル甲列ハ

予レ江ノ上ノ道ノ法ヲ

一 濃列同因リ保ノ尾ノ根ノ津ノ越ノ船ノ絡ル

一 越後國ノ土ノ名ノ根ノ津ノ越ノ

信ノ民ノ上ノ田ノ上ノ道ノ法ヲ

并ニ若キ米ノ寺ノノノ白ノ

一 越後村上ノ奥列白川ノ入ル

一 越中滑川ノ入ル比良ノ渡邊

一 越前敦賀ノ分ノ枝ノ小ノ渡ノ之ノ入ル

一 渡列同奥津ノ分ノ甲ノ初ノ分ノ延ノ之ノ道ヲ

一 分延ノ分ノ袋ノ淵ノ之ノ道ヲ

一 甲列同府中ノ尾ノ初ノ分ノ之ノ入ル

右何レ土ノ名ノ所ノ旧ノ伝ノ統ノ之ノ

六之卷

一 大坂ノ江ノ上ノ之ノ船ノ路ヲ

一 同海上ノ難ノ所ヲ

一 大坂ノ分ノ有ノ馬ノ湯ノ本ノ之ノ道ヲ

一 同下

一 大坂ノ分ノ有ノ馬ノ湯ノ本ノ之ノ道ヲ

一 同下

六丁目 一 大坂が方へ一ノ道之法

七丁目 一 西國三橋三番觀音廻之道

一 四國色路道之法并歌

十五丁目 一 大坂が出雲國去江之陸の

一 同ヶ國懐多兵之陸の并分れ道

十六丁目 一 播磨北流が儀の岡山安藝の

一 廣島備後福山之道

十七丁目 一 吉野廣島が石見溪田の

一 備前岡山が國懐多兵の道

一 備前岡山が伯耆の

一 備前岡山が流後河川の道

一 備前岡山が長崎の

一 備前岡山が肥後熊本の

一 備前岡山が布衣去江の道

一 備前岡山が賀列金江の

一 備前岡山が七ヶ倉の道

一 備前岡山がの川とんと

七之巻

一 西國船路道之法

名所旧法并ニ舟ノ正名也

一 去つ下國の奥列國船路ノ正名

四丁目

一 日本國中ノ繪圖

五丁目

一 大坂ノ西ノ方ノ一之海路

長崎と通之法

六丁目

一 首夜長後ノ正名

付アリ

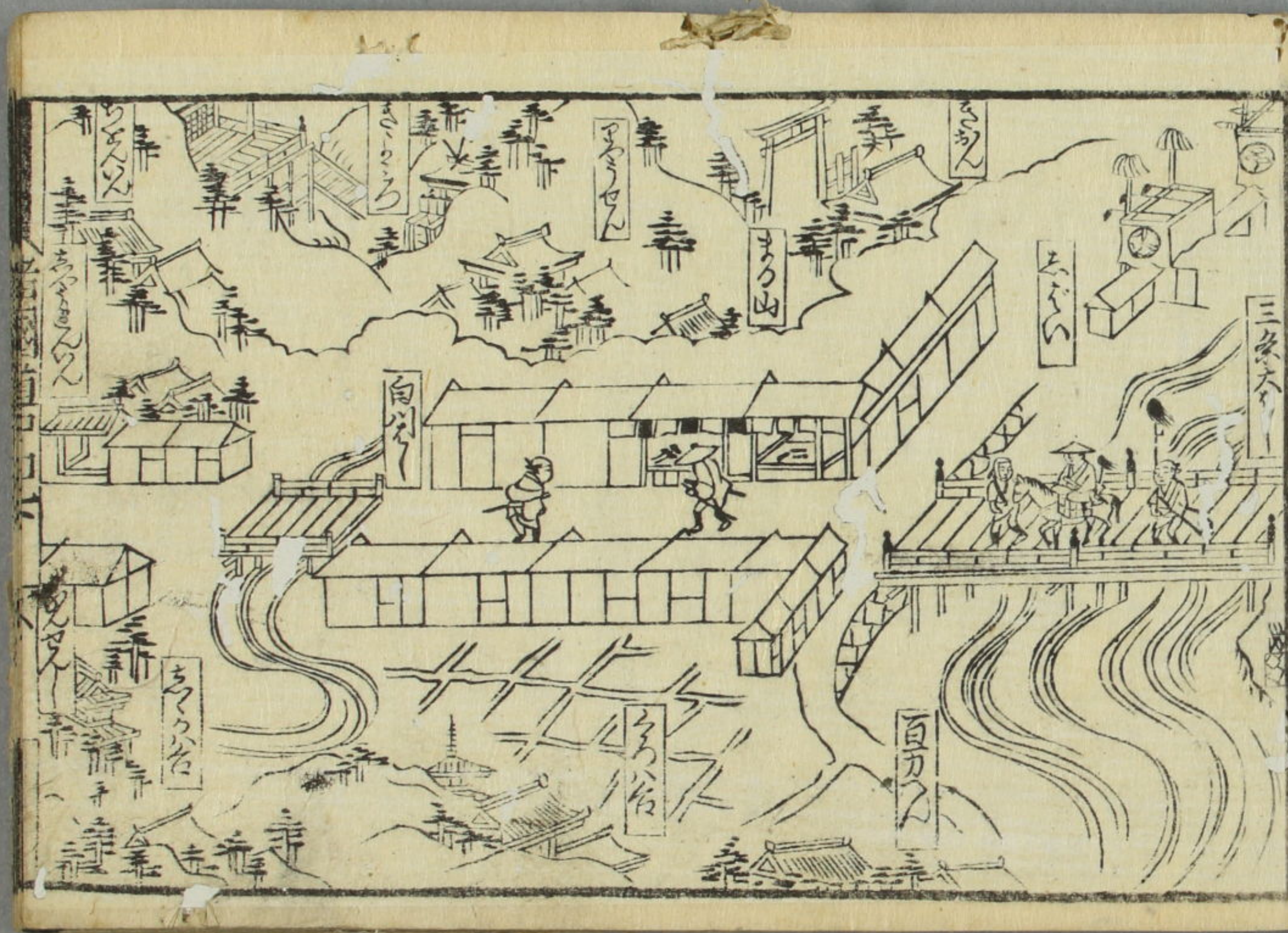
十四節 日月長後日初入

長ノのちらひと云々

目錄畢

東方大洋と三葉

のりけ百十二又々尾五又々今全三
二条の領域を三葉大橋とす五町を
和のともつかに此世のりを橋のり
田桑川東より西の方へ流るる
橋の東のつたれ方にも法橋の
と云ふ袋中秘高のりなくあてをり
りも秘法流末のありけ河の二程や
かりしおとそり今いんあうして
圓雄といふ名傷を癒ひて西よ世の
人じんまうとも名のやうにいひあ
やまねりなる方よたあまの祇道か
りともつてと今いんあうして
とて町やいんあうする也長らくも八坂
のありせん流あふがららあかん飛三
だんせんゆしどうあまいありやの



とりのりこののふたしをばや町
他川橋原が若く川橋が若く川
平貞文

中勢
なだれてせよとゆんこふハ
ゆる川れ流りつとふりりれ

ゆる川橋の東の橋つあるはたを
知恵院へけたこを町の中程の方
へ渡りつちよ梅のまれ私らけ
の中はとといつふり押い知恵院
おそつと深きう上人おれたる風れま
おふりあひくつあふりありあず
ていよよからうまはふるはく社
あくわくるは月廿五日よいふそん
けいありぬくはけがよあそん
はつきゆりのまはかとさへは

津と宗とあつこののの
この法師あつこのの
とつこのと深空上人乃つりあふ
せんあふ集とそつこの破定上人の
中子よつこの上人とよ法師徹選擇
といふゆんこのの事とつりてかんが
がふあハ雷天乃つあつれるだくび
とまふりしつあつの大れもたよ
とつこのとどういふ法徳坊のりび
とつりあつこの川にがとつりて
きせん乃た許人あつこのひりりつと
このの勢とつこのあつこのをば
るこのとつこのとつこのとつこの
人の法師上人のれがのつりりか
こつこのあつこのあつこのつり
くつこのあつこのあつこのつり
つりつこのあつこのあつこのつり

世へふせんといふてはふいどを
さうめしてはらとせぬよへに
して大井川よかきまりいんわ
ふよらぐまりぬいそくはかく
われよらりあるわよのころふれ
いざんよりしていりどからあ
村中の人くわやこそいれど
わけらりれがよ人のいれど
そふよちどそわどるえめあ
て今にまよ梅お思院の上人のいせ
んげかされしれかまが決まら
一海古田の本あれをいれ
たうときれあごちけにぬわ
ああ和南のよとぬひく新
わが恋ちまどふれのとあ
まらげが東よ風とどぐり
とあびぬひくまらぶらとど

わらりまの和南のよとぬひれ
しどけてよとまひくゆと
よのよのぬれりしゆ人のせつ
支路ひく乳白衣まをか
をゆらとやかどらふあのか
▲右方よあうまぬんれつ
同三申の社あ傳お大師の
いそひまぬよとどらり
やひおまらりぬまを
きまよそまけり中
まんあしわくよま
ひらりり甲あえ
▲左方乃あゆのうらよ
いあへ熱田院
地と敷てふま
かよかえまのふ
あうい

死のいどとひぜんかんよあつめや
一かひ旅業院々毎日運脚引を
りもせくらり凡うらとひらにけ
めぞつろのめんとばんびやう
しやうとるふこしとわ今ハこ
るゆとこをてとやんかぶたの
こりして織よわうりひぜんか
むりになてころど死りとこと
たりせまらさわまりてひんぜん
とよこひ村乃門の世業れ本
依の佛ありて仏法と名ひする人今
とまぶて念仏ととやた方た
もがめんじんじやうとん堂又
り一回他川さうごらん乃
いたちと東の辰へまひて右
わもこは乃天重れまへひた
△た乃方人成のうりよお軍

もハいあへんじ三まう乃
長思乃あま今れは平安城
結ふ耐ひ比どうかひせら
せよのくやわうお城乃
こわりとやもハあの方
とまぶとあづくかまそ
種のうちくづわる中に
もはことと南のこよは
とまゆかどあづくかまそ
のまれ中ニ兼産ととらて
あハ方たたあまと白虎と
かまそ三百六十種れは
とまてはことと此の方
もとま産とあづくかまそ
の甲わる密乃中に
こととといゆへま子
とあまあつめまニ兼産

子云成ありたうの事おちよ白鹿と
 て成よ田井お魚の勝地を中央
 委つらりし方おらつたことと
 まがりなるふよ人とまひとかど國ハ
 と忽々下とらんぞうしてわさころ
 べたわかんとうかひすとまひ
 ありていまぞうとあきさりを耐
 け八丈の古ん飛とつらてくらがの
 のよりいぶとときをならどとせゆと
 やそのをとお軍乃友位とさうけと
 まひ天子とらうと祝ひてのあは
 かがくひおと地ふよろとよかれ
 ようくい地とさごことと下との
 多ひていふよらうとほとつとせ
 一と今いお軍とアえたれが下
 いとさひひわらんといとさひは
 きとさひとさひとさひとさひとさひと

わまはむしとふよと粟田の雲々と
 一とまひとくちとまひとくちとまひ
 ともをわまはむしとふよと所のたう方
 さやうのなむしとふよとあむしと
 こが柳かまはむしとふよとあむしと
 雲ハ柳乃あむしとふよとあむしと
 ららる柳と右今柳あむしとふよと
 うまあむしとふよとあむしと
 雲のわまはむしとふよとあむしと
 わまはむしとふよとあむしとあむしと
 ▲たのすれぬよとあむしとあむしと
 よれ人のあむしとふよとあむしと
 のたうと目的の雲たらがれと
 わまはむしとふよとあむしとあむしと
 天兜屋祿をたむしとあむしとあむしと
 いふとあむしとふよとあむしとあむしと
 あむしとあむしとふよとあむしとあむしと

どくろんぢうやうなりたりせう人
わやまりて此神とすしうぢあらの
と死やうぢあらうが今人屋ぢうん
ぢあらしてあやうなりとこまぢあゆり
はわよゝあがぢあらとぢあらうぢあ
らぢあらとまはして魔ぢあらとこ
まぢあらとぢあら方とつぢあらと
あせとぢあらとぢあらとぢあらと
はたの方ぢあらとぢあらとぢあら
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあら
まぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと

▲ひの思ぢあらぢあらたけよ町ぢあひの思
ら思ぢあらぢあらとぢあら三茶のたぢあらひの
思ぢあらハハリぢあら▲神廟ぢあら若天を思
志ぢあららぢあらとぢあらひ思ぢあらあよりの
思ぢあらあぢあらとぢあらぢあら方ぢあ
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと

三茶天臣

さうぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあ
らとぢあらとぢあらとぢあらと

▲たの方よたあぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと
ぢあらとぢあらとぢあらとぢあらと

ぐくも小川宗吉の筆に▲たつたを
 乞ハ梳井川のたつたからうまふふ
 たり▲あまぎをぞまひあふ三升もの
 下々小園敷（たけな）はあふこ▲六比考乃
 養あこよと十福あこよこ▲かいつけ
 石三たも毛分やこ入あふこいしうら
 とかたこ大津のどぞとせいのいしうら
 ▲らうと升くもろやま▲入るけの
 川もろろたわこまけの給と舞て
 うらこわ小故甚いふよ実あふこ
 正れ乃方よせまのあまふ置ふ町い
 ふよととろつやろたあふ町い
 存ハハま女あてびびんのきこせに
 ぶぐいかくあろたれとまの娘のか
 くれとこもそ妙とあろりーがのち
 むハきやうたてろづたこもこのあ
 うむとこもていせいせも人よまはる

せじとびてゆきこころんよむとてい
 けりし時さげかくもま時のかん
 じと陽成院（やうせいゐん）よりぬわれこのあまふ
 雲のえちありじいしにあふね
 たりとせのころまゆーた
 とよぬがせらまーゆきとふ
 人あつてれらせられが町ぬわむ
 雲れとひまーむーいころるねど
 みーぬだまの内ぞゆーま
 とわむじぐーろろこーとひふ
 あそれゆあへーふ町がぬせーふいふ
 おろる市東置をこ市東よふ町が
 石橋を又を東乃ろりひつわろん
 魚釣よぐりーれ市東置べひれ
 む方れよのどとあふる整（ととの）のま町
 秋風りあふはてとわがあへ
 とひころるあやこしとてたあゆけ

入てふいふはあふふふふふふふふふの目
よりふふのふふふふふふふふふふふふも
まふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ
とふのふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

三葉不言

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

源か約言

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

八所はたの方よせえのの祓のまふ
せゆよせえの志ふふふふ

先書之

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

流泉宛來

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

こふいハ戀一わあ故りせさ

せさ乃の祓とヤいせと此のまふふふふ

これやいせとゆふもとれこ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

とふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

世乃中あふふふふふふふふふふふ

まふふふふふふふふふふふふふふ

とふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

流泉宛來の本の秘曲とつふ

しとい河乃る改へし海乃北に迄
申の川子申おちしれむい雲の
わりのとて乃る川東とつらり

清魚 よこ雲ハ云よわれておふこの
世にち乃る凡もをわけぬる

常陸并志升てやハ殺りまんお改乃
入也 世き乃りやハ秋の夕なり

▲大津よりごや町八所を町入る古
城乃たまふ礼乃つら

大津の草津へ三雲守六町

▲のりけ西天寺を見文人三十五

▲礼の道は乃る三所といふハ山馬
と長野山といひも多と用城と

ふさんくそ知澄大師と申すも
まこと信濃大師の記で申すんこ

つ乃あ家礼世とく知りけんびのん
おや申おちるるるるいせん

大し川申すめりけらるるのて
とふく乃でといこり法海の

つてならまらい名おきけりハ知澄
大し乃ると二百房引ていふよう

つり後ハ時よ長柄和尙百六十年お
こおそい乃りわいあひし者ん

のそりくがらとら者大しれおとく
しあり大しもとらけて三雲輪也乃

乃者うとく一代理教の法とのあ
引くハ法流いよくこん申す物乃

総領四海乃傍れりい久いあ田園
のたおれをいりて天下りこれ

礼りおえ天知天皇天武天皇持統
天皇いこの見とらゆん者れよ

ゆハいあ乃野のめとくこをありけ
るゆ今ハ并志と名知しとこえ

大津の草津へ三雲守六町

ごうの申さるる事トん乃ころし
明りつよわろぬのあり又田系表た
ひでまらきあんとせつてさうごう
トヤノのほりごまむりく文保三
三井もあんとさうり時ひくど山門へ
丸もせてわさゆもさつてまげあす
くしとがさあや山わしをばし
もまあふたなるやいつけをさも
くとたきよらうて二平くまう
りてそれよとぞしつたりさるも時
ひくさらのりわさるもと都二井
さゆふもさあうりさる山わし
いあくもさあくさむともこれ山乃
らまを教ふたなきいし乃人せ二井
へりともさあうりけまひくさる
なげよらり今ハゆ乃月あうさん
はとられせれあつて二井もあうり
はまわろ時二尺むりあふびまりし
くせと尾とあつてそれさうしよ一
乃四よえりとのよよあはなり今
これがひくさきく人あを船長表の
めとがとらうしてぶせんさる乃わ
つきとまうま代乃やぎさひるさ
る親もあは乃筒井の津崎公房の
わとてやぶあ親も乃がひまり海
乃めのおのさげもあひかき
の二門表切てらう

あふりかいてれうは引うと乃

目あはれあぬとがわさくさ
又かうさごごうさいああんのさうづ
乃のらりあふさのさくし中法
あくよれあてさてんおあびと
あふひありありては外とまてあそ
いさうしゆらりか乃ああんの山乃

とてハてのこゝにありあゆるくハ
かてふふとせしやとてあそむやと
と名おひひけひく乃びけこまら大
と今津井とやづつふは

わしあひひく乃る孫れねとて
わかれあどむく神と月か
とやづ山チ織くれハまのれや
約乃つぬつて妹とあしと

わら山をけれそつに交ぬまは
くはのこことよあありつて
作生嶋は嶋のいゆへ系引天皇の
河ありありとよきわたり嶋の内よ

舟とよからしまらやうだがられは
依之嶋ハまの孫とんそとえんふか
同よそくは進つてまらんらくがま
かこれらうらあわけれぬがき

かき乃嶋長向志山回美移の浦
くのらとせ凡あさ△とが若ハ知
天皇乃山阿大津のまどそとそと
てまののまやこしよふこ

ゆがかまよぶのぬちあまゆと
しよかまら乃山とらうらま
んはめよまわやの海ハくこらぬ
あゝなれやうは志がれうらな

も親者ありふせきえとそ山林の
やぶ乃下とりあめく初るんぬ
▲京所筋た乃のこ町よ四乃まの
▲村中村たたまえん三と力たの

中町とらん山町とらちつとそ
たやとせし一りのあこことてよのこ
▲巻の村小川二つありあ方代川と
りらと川に河をまふた殿三層の

殿乃らる本者長伴乃殿とそそ
の本二本あるしよかのゆら八平島

と海よりのとくいきりひこい
 かんぬおこえれむけきのもめて
 かんざとあふびいあふらんこうのこ
 づからりしてつねにひねるがびり
 いあつたがけくこれのつぎうてらうり
 ひえい山もあふびいあふ山もあふの
 きあんとまりのつぎあふりうとと
 けげうぢうのむとみまきして酒洞
 のひりあふいせり酒あふり
 こりうて若ふふ房れのみまき
 べたれあふりこりうととや後酒
 ちりんがまにけりぬりのあつ川の
 あつとあふりいと山酒酒とあつ
 まひらん今ハヤリくとくあふり
 教をいふあつあつ山酒酒とあつ
 妙きうあひえれあつあつ
 くこれきこいこやあつあつ

▲わづらがあひあつあつあつあつあつ
 判官あつあつあつあつあつあつあつ
 わづらあつあつあつあつあつあつあつ
 わづらあつあつあつあつあつあつあつ
 夫よわづらあつあつあつあつあつあつ
 世にあつあつあつあつあつあつあつ
 夫よあつあつあつあつあつあつあつ
 ▲勝不敗たあつあつあつあつあつあつ
 わいこのあつあつあつあつあつあつあつ
 はんまあつあつあつあつあつあつあつ
 用てあつあつあつあつあつあつあつ
 勝あつあつあつあつあつあつあつ
 してあつあつあつあつあつあつあつ
 ▲あつあつあつあつあつあつあつあつ
 りんあつあつあつあつあつあつあつ
 夫あつあつあつあつあつあつあつ
 してあつあつあつあつあつあつあつ

いらぬやまてふるさくの氷舟なら
 まらぬらんらんや一時大陣あかむ
 こんまおて十方と一統してのりあ
 いがぢぢぢの儀持乃きぞうゆま
 こんどきんがけだどらんて舟れたよ
 ちあふんらんらん大陣ハまのめりり
 舟乃ともいけけんてぞうろくぢぢと
 けんあひぬよれ舟つがわく目申に
 つきあふを耐えんら船部のおく然
 毛らんら雲乃舟之目申あよわらん
 とのこまひらんひゆよ大陣ぢぢから
 とおまけらん事とくありま去らん
 三町程ゆばたの方面中三井田所
 二平を後あまねハまんまのぬ所が
 毛らんらたき石山へのたて執事書も
 向いけいハさぞひのらんらんまの
 ころくんとくもさむじまらんやま
 の大あでんまぬらんらんらん金
 桐乃中ふたれあもがれぢぢいぬひ
 をらんくのまじもまじらんぢぢと
 めあらんらんハ舟にのりてあ海
 うくひててうくことおぢりああふ
 ん乃がさおあていよよてけてうや
 後つらんわあひいけらんらんま
 りもくいぬハも執事乃まのらして
 こまのまふともありて持念ふま
 とそまきけとあうれをまのあま
 はんの船部らんらんてあて志祿
 かんあひいよい山乃ころの執事
 けいあああふともうくことま
 よらて奥研が金とまの毛よら
 て大依らんらん後をせんまのあふ
 とそ毛ひとまひ執事のぬらん
 とそ石山のまらんらんらんあハ

又者、さうのわん乃女房しつこ死志
まぶるおよこまり親善にひらりと
うけまひ八月廿二日の月こぞまふ
つりたるよこそよこまふとんぞさう
さくしと秘伝らとめて流女お徳と
ゆりともはわしれ巻を争ひしゆり
およこんやまふらんりゆり
若菜と能

區房

またの板と書ひし斗成まふり
しつこ世屋ぬらんせよの長に
お徳よりなるおむくありまふり
さよそいひまふりてひらり又のよこ
正徳乃ぬれく石出ふふわたりて
大なるりしきいひらと巻とひび
およこつくとまふりしつこ親善に格
のちまよとびらり親方乃りてまふ
わまふり九くおむりてそくはまふ
わり又まふりまふりあれとよかりて
あつれりりてあつれくあまはかば
わんゆとまふりらひあつれりらむつ
まて流下ゆりらてハれぬくまふと云
う流下乃つあまふりもは堂とあ
まのびにれやまふりらひくせと
わとりひらりとんやまふりん

務田村所

せし大橋長九牛なる
あはしの上ふたよ石出乃親善堂
んちるまると長橋とむしよとんて村
たよまふりおちやふりまふりといふ
▲また方一池の月の梅れ池といふ
まふり池の月のあまふりあまふり
まふり池の月のあまふりあまふり
まふり池の月のあまふりあまふり

野原の玉ありはとこあそりト八十
程ありまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト
あそりまありつととあそりト

草津分所北二百里中拾四町

▲のりけ百平又く鹿八丈今之鹿
▲くら川橋元なるあつひのり
▲新倉原村▲とつ村▲あつひ村▲中
くら村▲あつひつ村▲はよらつら
池とせぬまあたらぬのてをわ
のりうとんぬま▲まりの村▲ま
ら村▲あつひつ村▲あつひつ村▲

▲とつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲
▲あつひつ村▲あつひつ村▲あつひつ村▲

△かつて村△ありて村△とくくは村

△たを善きあり△よて川去りて

△いづれ村△ききとて村△たる方

△城のたけとて△とて△口の町の入口

△よ八まんのまきまの門△五た方

△いなきよつら△ろたぬ△きらりりり

△めさぎたわ△そあき△のま宿の中宿

△ゆる△てし△くれたの方よめが秋

△き雲の△人思ふ△ことあづい△ぬ

△あま△は引△るく△の村よろ△ぬ

△き△な△く△お△め△と△て

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

△い△わ△し△ら△て△し△ら△ぬ

後してこれのまゝく入んげある
 ずとてさういふがでいづらひの
 報も書らぬ人の下よらん入らぬ
 事して由を執せもたがらとてかへん
 ととるはひのこころしてさあつて
 どとておくとじりあつたよこ
 けつて執事のいけんをひりて
 しかつてらあつてさういふが
 りつて成ても由を執せもたがらと
 ちかひりてさういふの下よらん入ら
 ぬ事よわぬけしものめがらふて
 子なりとてさういふがまらけり
 事よわぬけしものめがらふて
 はんがぬわいりかひりてさういふ
 後まのそのまゝいふやぬわやこ
 のまらりてさういふがまらけり
 つかをたはせぬ所もかえしてさうい
 ふらりてさういふがまらけり
 報ててさういふがまらけり
 たりたりとてさういふがまらけり
 ぬ事よわぬけしものめがらふて

みかほはらにらぬ武軍軍令

▲同頁七又▲同八十又▲同中二文
 ▲みかほ村▲こしつ▲いか川▲今花
 ▲大乃村▲さくく村▲いらむ村▲い
 じり村▲まの村▲いふやわら酒
 ▲まらりて村▲そとの白川橋長二十
 ちあつてさういふがまらけり
 ぬ事よわぬけしものめがらふて

ちよは坂の下へ武軍軍令

▲同頁十九又▲同百五又▲同全二文
 ▲つらり▲あやわめとせんてさう

▲白川橋長二十二年の事このまぬ
 めて田村丸をせんとしてひきり
 中つるへおまのちが故るあせ死
 ころの故うとたの方よまき二つかり
 を下れせだつてあせのあむいころ
 めどけあせとよりまうんとあむ
 すいけりしむるし死命を信つ
 へこそとせりたるよあのとけい
 わり信とあいらとふていそくか
 んらばあまのそよのまきと
 りまけあてふとあまのまきと
 双眼をまけり八足橋ひした
 のしごあことふ信とあいらと
 こそと横ひあまのまきとあむ
 眠天よけりあまのまきとあむ
 へあせとあまのまきとあむ
 へあせとあまのまきとあむ

りつらあせとあむあむあむ
 せせせせせせせせ今に
 ▲い故のうかあむあむあむ
 あむあむあむあむあむあむ
 りりりりりりりりりりりり
 本の下にせせせせせせ
 ▲なげあせとあむあむあむ
 とあせとあむあむあむあむ
 りりりりりりりりりりりり
 のまのあむあむあむあむあむ
 とあせとあむあむあむあむ
 ▲故のよは田村お軍の故あむ
 八所あせとあむあむあむあむ
 りりりりりりりりりりりり
 へあせとあむあむあむあむ
 ▲故のい故のあむあむあむ
 本邦のい故のあむあむあむ
 をりりりりりりりりりりりり

おびやうなれうのまをせめてさら
 とくしてせりまよりのまひり家
 中してさるおのびりから三堂
 せつまのりた赤まへたけりまひて
 さぬくこりりことせぬぐりりさ
 よのらまひるを義の松ともし
 ▲宿のりらよ橋二つあまここの後乃
 下よりかたれて君ハ川をさつてたて
 めるをせ代めえさるり年打つてさ
 へぬかり山をきてあまどうり人かへさ
 せ附古今の巻八後ち七八町より下を
 惟發下
 せむか山せどりわすれび衣
 志がゆきりり人やまらん
 西の法師
 せむりゆき世さよまにかり捨て
 ころまなりり我者あまらん
 世まきバネ一紙なりとせり山
 せむか山

改り下せせ兒一置赤八所

▲同百十支 ▲同 七三支 ▲同 五六支
 ▲新条やうあひきともことわざ
 かりてうもをわも ▲くつけしり
 ▲とどろくわひいたまがねわひか
 ちよかたれ又ハみぢとつらまぢうの
 改の下まむつとせとをいひ四ハ八十
 湘の川といふはもと
 後
 ありせむしつくり改ぬとて川
 八十せとちぬ又月ぬり出
 えむとぬもやとどくのまかん
 かりがそごうはえあけけか
 奥子門親と野とまかちあすてか
 とどろ川八十改り
 かりとけとせで
 けりぬそをらぬとてわれ

せんと志山へを呈す

△同 六十九文 △同 四十九文 △同 五十五文

▲交と交とヤルものいかにへ後
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す
 のせんと志山へを呈すのせんと志山へを呈す

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲交と交とヤルものいかにへ後

▲申とて二▲とて二▲くこがり

▲心者の為におかしくれやきまに儀
の張りたきさあぎりこがし能くわと
に能くわをわこまん伴と又わとれと
ましつめしめつようこあめうめして
内よやれまをさうへりもさるの
儀としつては遠来の旅人こがし
穀物^二花らしむつらよきうり米搗

庄屋なる茶師へ亦三所

▲同九日文 ▲同十三文 ▲同十六文

▲うかぎ所たの方ニまどくかめを
川あどが川し▲所乃入にた方のは
の下に茶師あび茶師あまからど
けかくともまねんいからんんん
かりおいおる菊面^{きくめん}にまわくは
多くとんばくとれぬい^金うりやう

石梅とがてうあそいび茶師とて四
くた乃とこふまおりしそをそ
戦のたはへてう法師徳書をあめ
いおのいまごあ中あるよるひ
こやうくやきしとひりぞとらひ
まふひ菊面^{きくめん}石中^{いしちゆう}にまてひり
とからまりそをのめたりまての
あもこ非あへてう梅ハ茶師あま
の信^{しん}とそ別を石とそまて二二
そやしそあしと作りあり後
といのりよごりひとらふを刺登
まあらあるすたふのあひびきよ
あしとらぢとそまきあめとそ
こふし▲びとんた乃方ニ

茶師分四日市ニ置字八所

▲日五十七文 ▲日八十五文 ▲日六十二文

▲巻二下 九十九文

さやりのりる次

くまのりる次、 二里

川舟二人と 二百八十三文

さやりのりる次、 一里九丁

舟七隻 舟 四七支 人 三十七支

うまのりる次、 一里九丁

舟七隻 舟 四九支 舟 三十七支

まんむる次、 二里半

舟百隻 舟 七支 舟 五十四支

けりる次、 舟九里

いしつへ本為川舟とそてあわぬ
まばよりぐく志がうぬまがな
とくされとも風をびりたれがのり
ゆりし他をまわりてゆり又まを
い何明よても舟とわしれがもり
さ比由舟にむがゆかひるの七つ
とある川舟舟とわさだ海舟乃
れ乃方よ深をまのまをてあそひあ
といあのをいあごりまを神とらん
がうある舟にたててびわつてはま
ちきりあうにに磨乃げんそう
船とやしこころに富余がまおふ
舟やとばらんところををふあ
たの船舟はやうきひとてげんをの
んととくし世とてて同舟と
らあふもりのりる次あそひぬを

坂屋うまひの懸がふるてこりれ
 むひや方土場通商と云仙人と
 つりて屋うまひのゆいづくよ
 わるを福まきよりうまひんよお
 らくまんとするの事りいどか
 らひわたりはれいむいふとも
 ぎが海ともやえりうの山とつき
 山ありらハ懸にありさくづじ
 て上よハ表村くまわりて地
 らの南の方のりたまふ坂の
 ▲わつた赤まよて大赤いゆに
 いてまよとつていふさ向
 ね方におよあやあち西海
 わるなりかといふを色く
 とやハ地ちりくうふど
 のらんさあるがらりあうけ
 くらが死乃寶海カシノの海カシノ

七されどりんとくハ天照之
 洲かとのつひよわきまご
 をふれよ天照之赤と川中たひ
 いむへかざれまひびも乃必
 上のわらをりまふあて
 わらりらとてあつとあて
 やおげてかたけいびり
 中とけて見あまらりく
 ともまますてうまごて
 こことわれれまそと
 かうぬるてややうま
 八人乃むまあどりい
 十ら八つわるとを
 まりらむあひがりて
 ちかきりかもしも
 とくまて今人のこまり
 娘といふこいんむら

人等と切て扱へりなりも切の扱
 といふは若く尾のあまそくといふ
 扱又人等ハわするもあまの扱と
 扱す小まらち大照天非ハ伊豆の
 こととい目の中より出てあわす
 とすくまの實験とたそて下
 しあつて人五人世とありまのん
 天皇ハ此附やまそ扱のこと大照天
 非のり扱とてきあ空扱まの
 若乃必法念の扱いど川乃川とよ
 わあまらうあま今乃由美とてに
 仁ま二代系ハ天皇ハ此附あまの
 若乃日東帝にむきと人とうあま
 扱ざりけきどころ乃伊豆のまじ
 やまそ扱のここといふまはけく
 らうとまそまてありまのまど
 おんまといこころ乃伊豆のまから

同まへあつていひくこと乃空扱と
 りて尾張乃空とりあひい
 たのまそ扱とあまの扱とま
 そまとあまの扱と扱とりまら
 まひあつてまらあまあまま
 くとまらあまあまあまあま
 ともあまあまらとまあまま
 乃のあまらあまらハけあまあ
 しあつてあまあまらあま
 けよりとあまあまらあま
 亦にあまらあまらとあまら
 し扱あまらあまらとあまら
 ころあまらとあまらあまら
 ぬまらあまらあまらあまら
 扱とあまらとあまらあまら
 とあまらあまらあまらあまら
 あまらあまらあまらあまら

むかしの虫こしぐんきんり又た石
 とかかひけひれればなる火かた
 びんのかのびるふりくろくかた
 かけやうびくつおまじうんい
 けりそまははねとくおだのねと
 ちしねんといふのりせりねん
 よとねの浦せかむ風わくか
 ぐんといふやとねうこに入て
 とかあまふつゆよそ大舟ありわ
 正あひとまうくけのせうと
 とうけいあがりねん方じく
 むやとねと一ひてききくとをか
 あひーと東國をうてあつま
 とわりこ又そまふりかまのけ
 くりまをねの敷よめ大なる
 まかろあまき乃海とくうけ
 びあふよまま火めえつと
 かけとれて回のああうり
 いふとわりのこしとこい
 りぶき山よ入まかの大者
 ねんたかろ蛇とわつる
 せりゆりそまといふま
 火とく大あまひまよわ
 ちりのこりあひ大ねん
 たりかよりよまらるる
 ちしひいしとまはねん
 りりいひいそまと醒井と
 くとしとてとわつる
 ちしとてとわつる
 此のよんといふとある
 ちとてとていびり
 ちかおよねといふ
 白名ののれとわつる
 紀伊のち名草れ

とまらりたるがいはふとわくやめ
しりん東雲よとびり尾張の
松子乃鶴といふよとびりやま
の鶴ハをと取らりいあごのすね
乃をふし包もよとびりいあ
長三丈の包懐二がれと見して
子乃鶴よとびからぬいよふい
包も懐とがけ懐のちりふとび
とわとつて今よとびの宝珠とい
ふよととそ非といふいよと
物非ともし東乃方よのまぬ
といふよととととととととと
からうとととととととととと
ととととととととととととと
にぞり新むこのまよとととと
くふし今よとととととととと
ととととととととととととと
三り夜川とつて天中ととと
のぎとん久ととととと

とわらあごてい

▲同六十九文 ▲同五十五文 ▲同五十五文
▲九乃方よ仙人塚あびりり
の仙人うきまよのりてあるこの浦
みわがりいふいとまより目とあ
つとぬよ大勢とぬて天よのりぬ
天勢多まをいそむるふと仙人塚と云
▲たよがむの城あむらたふりわ
まりと▲山ざん橋▲と村志の方いら
とたぬと▲切とも執事堂の元と
よ開帳あびりりあむ輪山花様
とつて執事の舞場いばりんとん
ととととととととととととと
りいばりよとととととととと

死しんゆゆここんんととももののしし 六ろく三さん六ろく五ご五ご
田島たじま橋はし長なが二十にじゅうあるある中なか嶋しま橋はしあり

正二位李能

風吹かぜババををいいああるるこころろくくここのの
おおととりりぬぬかかここににりりりりぬぬここ
ああるるこころろくくここのの浦うらややぬぬららん
ととせせくくたたととめめんんととめめ
若わかややととわわららぶぶああるるここのの里さとああて
ああららししくくたたととめめんんととめめととすするる

鳴海なるみからからいいららうう三さん里り半はん三さん十じゅう

▲同百七文 ▲同八十文 ▲同六十二文
▲ありありままりり▲ありありふふ村むら六む月げつ百ひゃく新しん米まい
初はつののいいぬぬととうう村むら三さん月げつとと尾お張はりととののここ
くく横よこここいいもも川がわううええををむむ切きりりぬぬ半はん
一いちええままのの一いち▲ありありやや▲たたのの方かたいいららかか
ききのの大おほ嶋しま部べああるる中なかああるる市いちありあり

▲たたのの方かたいいららかかやや乃の城しろとともものの町まちのの入いららぬぬ
たた乃の方かたいいららかかややのの

ららののよよふふ分ぶん思し勝しょう八はち三さん里り四し町ちやう

▲同百七文 ▲同百六文 ▲同八十八文
▲海うみ乃の今いま半はんををむむらら 乃の方かたいいららかかのの
ままささううせせんんああるるふふいいへへかかががるる小こ川がわええ橋はし
とと一いち丈ぢやうををりりぬぬ北きた角かくななるる本もとののららいいここ
れれとと八はちつつらら一いちりり八はちつつ橋はしとといいふふ事ことふふ
のの中なかににああららびびりりかかりりひひららわわとといいふふ
八はち橋はし乃のここままれれききははごごここららててとと
かりかりりりかかききつつををごごとといいふふ文ぶん字じとといいふふ
ととににととててささびびららんんとといいふふありあり
かかららいいららととききつつああららししくくここのの町まち
ままささううくくままぬぬららささびびああららししくくここのの町まち
又またいいふふははななににかかりりひひららぬぬ石いし塔たつたももあありり
▲中なか回わい今いま村むら茶ちやややぬぬ尾お嶋しまああららししくくここのの町まち

びるより入らざりしが小湊海に
 ▲うと拓所の▲赤松之丸▲あつと
 なる方の回れ中へいそぶあひり
 やんたの去去のじとわ浮りり
 かのやまきこくさかたとあ付
 むらまきく日本^{せき}のそり東夷成
 りりねえとそいふよりりて夫と
 りり後せりまにありて夫と死
 ▲素と丸揚去三百八あひりハ
 ちハハ揚めてあつたがどうどの
 耐あつたされたりけまがらつた
 扱揚よぬたり^り是れ^り高氏と新曲
 義貞といふよと大なる合戦あり
 ▲所の合はよまむ川と河あつたり
 去と二二る▲た乃方子城あり

思勝が敷川へを黒中九町

▲日七十八又▲日廿五又▲日廿九又
 ▲りのう▲上平川揚去長二百二
 ▲そそあうたり方以海素やりの
 わり▲あいのう▲夜入口よけ
 あつたやむたそりの集りあつた
 ▲あが川なな流素あつたあつた

から川合赤坂二里九町

▲日 百七又▲日六十八又▲日五十一又
 ▲申右の方やうさしと云津素の
 ちあひる東豊天後院地ゆかり
 耐水てあひわたりるといふは備
 ちあひりりあつたさうりあつた
 りりあつた流素あつたあつた

あつた合こゆ十六町

▲日廿三又▲日廿六又▲日廿七又

▲作乃しよりして乃今止たたきり山
の松平の百城のたじき名を安し

こゆが吉田の二里半九町

▲同 百十文 ▲同 七十五文 ▲同 五十七文

▲ごち川 ▲ふんち川 ▲あま川 ▲いさ川
のあけのたけを養う

▲こが川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

吉田の吉田の二里半九町

▲同 七十三文 ▲同 四十七文 ▲同 廿六文

▲いむさのたけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

吉田の吉田の二里半九町

▲同 六十七文 ▲同 四十五文 ▲同 廿三文

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

▲あま川 ▲あま川 ▲あま川 ▲あま川
のあけのたけを養う

わさき 荒井 一里十町

▲同七十六 ▲同五十三文 ▲同九十九文

▲橋のしよよあうとあまあへあう
とてあまあのもあう川へかたれを
さす神也まよりあうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

▲町へ入れたのうにさあがら橋の江
あうさうさうさうさう

古今和歌集 正村和良

さす神也まよりあうさうさうさう

さす神也まよりあうさうさうさう

さす神也まよりあうさうさうさう

さす神也まよりあうさうさうさう

さす神也まよりあうさうさうさう

さす神也まよりあうさうさうさう

さす神也まよりあうさうさうさう

▲舟ののりといはれせきいふあまあへあう
んのせんさうあまあへあうさうさう

わさき 荒井 一里十町

▲舟ののりといはれせきいふあまあへあう

▲いさよ今まれの後海と二りさう

▲あまあへあうさうさうさうさう

▲これといさよ今まれの後海と二りさう

▲くらあまあへあうさうさうさう

▲中さうさうさうさうさうさう

▲さす神也まよりあうさうさうさう

▲あまあへあうさうさうさうさう

▲これといさよ今まれの後海と二りさう

▲さす神也まよりあうさうさうさう

▲あまあへあうさうさうさうさう

▲これといさよ今まれの後海と二りさう

まのあまあへあうさうさう

▲あまあへあうさうさうさうさう

▲同 百五十五文 ▲同 百五十六文
 ▲此の村のありやうなる今も海
 老まの故の道にあらんしるがやうく
 なうなわらひししよの京勢面
 たりぬるを山しなる方をとらまを
 ▲あつたつらもやうにすの所の方
 といふ西邦のまゝに成なる方あり
 ▲まゝにやうつがわをうつつとら
 ▲まゝにやうつがわをうつつとら
 方と所相りきふんま村とあらんを
 若蒲の島は自苑頼かりしとら
 今もとらまをいふに津敷して居る

と海老のたれ付の三葉草

▲同 二百四十四文 ▲同 二百四十五文 ▲同 二百四十六文
 ▲天正元年三月下旬中田徳吉
 甲の初分森向して改康とす

海老のたれ付の三葉草
 けが坂状と云はれぬ人々を海老の
 入るの村と云ふ長と元二つあり
 ▲うしを村の所に入らぬと云ふ
 足る村のりの方を山に付る
 重の徳のあんま後を云ふと云ふ
 本にぬまのたの方の業師を云ふり
 ち井雲と云へり方の人を云ふと云ふ
 ▲津の所 ▲大天徳 如きし川の
 流たきかりんか わきんど百世の
 後を云ふと云ふまを云ふと云ふ
 らまにやうつがわをうつつとら
 今もとらまをいふに津敷して居る
 今もとらまをいふに津敷して居る
 今もとらまをいふに津敷して居る

つゞくしつた修乃申申りきれ
 てゆりしせりさうじのいもさばい
 ひととぬぞとびとくしとて
 ▲川と泉のとも池田の宿のたを
 長巻のともなるお百る地方をり
 ち長者のむじあゆやとつは極
 ち平の家蓋ふれてうわのせ
 今おむしてともり地とてゆわか
 やぶり石塔わさるとふりふとて
 今此のこれりともり地とてあま
 池田の方へおどつるとり川のお
 の畔よふととる春の▲小尾終山と
 流の時に舟揚あつたつとて
 き▲おとり▲そつら山乃美▲中希
 ▲町の八に坂あれて人あ▲中つと
 ち八儀まふまふ家あ山ある
 ▲この村町おえお三とて

▲この村町おえお三とて

▲この村町おえお三とて
 ちつら揚あはと十二乃あ▲断の中
 此の方にそうち大の林乃新あ
 ▲又を里をりたの方にひが揚
 池とてあつとていえの山お肥
 わり油とつは法師あ三塔
 五女のまふとつら若乃源室と
 らのめそひあにおによりあひ
 おわうとつらあつとてとて
 若よわちとつらあつとてとて
 乃つ新坊とつとつらあつとて
 字とあつとつらあつとてとて
 とつらあつとつらあつとて
 ちつらあつとつらあつとて
 うつらあつとつらあつとて
 らあつとつらあつとて
 法乃あつとつらあつとて

諸國道中記

ととをれと八命とたたわきこの
もたれよと死らるるなり我々も
次に命とたたわきとてその法師
と法をよめりて住ぶとてあり
るよ東西の使者かこえり花を
よめ法師よりありき法の書きた
の書きたるがけらるるそくま
うしてたれま出さるるそくま
ふくふあまめりてすめる東の海
えさざんしてあそびたてまの
おぎりのきまがうと書とてい
かりけりけり入あふれし

見何と袋井へも墨守

▲同 六九文 ▲同 四五文 ▲同 四五文
▲ふくがわとてたふはち二みの坂
坂のふたの方ふどろけり

▲みの橋や十七るありふ
▲いとおとふふふのふと十町
ねり方ふふふて凍るふりとも
とそく黄金の小札ふ付とてく
ひあけてとてふりひる今ふ
くまよきとてぬりふとてけ
あこころぬ▲きこら町屋乃甲れ
れ乃方熊野の権現の社も二山
川も▲あつら町入は二橋あり

袋井分掛川へ二墨守

▲同 百十二文 ▲同 七十五文 ▲同 五十五文
▲あせ川▲らだ▲ま川▲れ乃山よ
んがんとあふれ乃方なぞ二大町あり
▲さいこ▲さり▲あけ町▲坂あり

け川分あ坂へ二墨守

▲同 八十五文 ▲同 五十五文 ▲同 五十五文

▲かろ竹 ▲ぬり川 ▲まろ橋

▲そり川の泥たき河の入口は橋あり
さしおちあり▲たれ木の下にやうあり
乃内ニどありか乃さう引あり
▲たの方八まんのまあり同方ニ派あり
本ありこれ八田之のめぐ田とま又たら
町ぞりたありかそけとまあり若
まありつつきふりありまの同まの
まのまあり庭ありとどけあり
なりうけり今ま海うきと派あり
まど平ありふりあり相あり
見者ろが儀うらかりれがけの
表とまありふりありとまあり
たり▲た方ニ男熱山女親山とまあり
か表ありと▲天王山掛川の派乃お尾
今川氏実ひ城楯築はまひ阿夫山と
尾筋の人傳ありまがと城かて

22

木山

